

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚原発扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Cutaneous head and neck squamous cell carcinoma metastatic to cervical lymph nodes (nonparotid): a better outcome with surgery and adjuvant radiotherapy</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	SCC-CQ10-8	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( I V )	
	Pubmed ID	14520114	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Laryngoscope	
	雑誌 ID		
	巻	113	
	号	10	
	ページ	1827-33	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2003 年	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Veness MJ	Westmead Hospital
その他著者 1		Palme CE	同上
その他著者 2		Smith M	同上
その他著者 3		Cakir B	同上
その他著者 4		Morgan GJ	同上
その他著者 5		Kalnins I	同上
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	耳下腺以外の頸部リンパ節転移を生じた皮膚扁平上皮癌の治療成績を解析する。		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究		
	セッティング	Westmead Hospital		
	対象者	74 例の耳下腺以外の頸部リンパ節転移を生じた皮膚扁平上皮癌 部位：下口唇(38%)、耳(16)、頸部(11) 病理：59%が中～低分化型 原発巣の治療後後発リンパ節転移が生じた例：84%（再発までの期間：平均 11 か月、2-37 か月） リンパ節の部位：level I(38%)、II(36%)、他(14%)		
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)		
	介入（要因曝露）	手術：13 例、手術＋放射線療法：52 例、放射線療法：9 例 放射線療法：根治照射例 66 Gy/33 回、術後照射 60 Gy/30 回		
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分	
		1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		2	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	34% (74 例中 25 例) が再発し、うち 22 例は局所領域再発であった。初期治療から再発までは平均 5.2 か月であった (2-34.3 か月)。腫瘍径が大きい(>3 cm)、多発性リンパ節転移、被膜外進展などが予後不良因子であった。 手術＋放射線療法の局所再発率は 15%であり、単独治療より良好であった。			
結論	リンパ節転移を有する皮膚扁平上皮癌は稀ではあるが、致死性的疾患である。手術＋放射線療法では、他の療法に比べ局所制御は良好でありそう。			

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	各治療群に偏りがあるが、背景因子を比較した表が掲載されており、バイアスを評価するのに有用であろう。(比較的バランスはとれている印象) レベル I V